

四阿屋山・冠着山ハイキング報告書

【山 域】筑北（安曇野と信州上田のあいだのあたり）

【場 所】四阿屋山・聖山・冠着山

【行動日】2018.11.10～11.11

【参加者】CL 柘植,SL 鈴木憲,鶴田,鈴木愛,安岡,杉山,大木,澤田路,秋山,磯部(記録)

【行 程】11/10(曇り一時雨) 千葉・5:00 出発 ⇒麻積 IC⇒四阿屋山登山口 10:55

→不動明王像→権現池 11:40→頂上 12:20 休憩 12:50 出発

→刈谷沢口 13:30 林道 13:45⇒西条温泉とくら(泊)

11/11(晴れ)西条温泉 8:30 出発⇒聖山 9:42⇒登山口 11:05→冠着山 12:15 休憩

12:50 出発→13:35 登山口⇒上田温泉(かめ乃湯)⇒千葉 21:30 ごろ

【内容】

柘植リーダーのハイキング募集は私にとってはいつも未知の山だ、しかし惹かれる。今回も、四阿山ではなく四阿屋山、聖山は読めたが冠着山(かむりきやま)はふりがなを見て・・・信州の筑北村のシンボル、里山と棚田、北アルプスの絶景と紅葉に期待を膨らませて参加した。



【11月10日 四阿屋山】

少し迷いながらもゲートに到着、ゲートは全開し難くここに車を置いて出発した。林道を歩いてほどなく坂北登山口に到着し山道となる。整備された歩きやすい道を登って御嶽山の不動明王に到着、少し下り池とは言い難い権現池を確認して、また登り始めると小雨が降りだす。雨具を付けて展望台に着いたが一面霧の中で何も見えず山頂へ。寒さ除けに神社の社の戸を開けると、何と想像を遥に越えた多勢のハイカー達でひしめいていた。

真ん中に深さ1M位の囲炉裏が掘ってあり、薪を燃やした跡がある。目が慣れてくると先着のメンバー達の顔が良く見えてきて、かなりの高齢者であることに驚かされた。地元の人たちらしく、明日に予定している冠着山の情報を教えてくださった。それぞれに食事を済ませ小雨の中を下山する。



ゲートを開けて林道を行く



登山口（先行パーティーの車が2台あり）



御嶽石造物群



穏やかな斜面を登る



小雨の中かなり寒々しい山頂



刈谷沢登山口に下りるころは雨も止んで

下山ルートは刈谷沢口をとり、登山口に着く頃は明るくなってきた。途中道の駅で買い物をするときはすっかり晴れて、明日への期待が膨らむ。

宿泊先の西条温泉とくらは、懐石料理付き 1泊1万円ではあるが温泉、部屋、サービスともに上、部屋に帰ってからの2次会も大いに盛り上がった。



ちょっと奮発して夕食は懐石料理



宿ではこれが何よりの楽しみ^^

【11月11日 聖山・冠着山】

西条温泉の朝は霧が立ち込めて雨を心配したが、晩秋の晴れる日の山里の朝は霧に包まれるのが常ということで、宿の方が今日の快晴を保証してくれた。

まずは聖山へ、白樺の美しい聖高原別荘地を抜けて山頂直下、ほんの少し歩いて頂上に到着。苦労なくして頂上に立ったのに、360度のすばらしい景色を見渡すことができた。冠雪した立山、蓮華、鹿島槍、妙高、黒姫、飯縄山、暫し見とれる。



次は冠着山へ、林道を車で行くと度々カラーコーンで道が塞がれているところもあったが道整備工事は完了していた。車を降りて数分歩くと露滝コースにぶつかりそこから登山道に入る。想像していたよりも踏み跡がしっかりしていて歩きやすかった。真っ赤に紅葉したもみじが残っており、ゆく秋を惜しむ気持ちにてシャッターを押す。

約一時間で頂上に到着、昨日とは打って変わって快晴の空にアルプス方面が目の前に広がる、樹間からは千曲川の蛇行、棚田も見ることができる。

冠着山は別名姨捨山とも言い、俳句や古くは古今集にも詠まれているという由緒ある山だそうだ。山頂は悲しい姨捨伝説には不似合いな底抜けに明るい場所であった。



山頂標識がない冠着山の山頂で記念写真

下りは、坊城平コースを降り途中から露滝コースに戻り車まで戻った。帰路は善光寺方面を下に見て棚田の間を抜ける里山の晩秋の風景だ。上山田温泉かめ乃湯は公共の湯だけあって、安くて気持ちの良い温泉だった。ちば山に所属したからこそ、今回のようなメジャーではない山に行くことができたと思う。柘植リーダーとご一緒したメンバーに感謝いたします。

記録：磯部菊子